

令和6年度 西東京市立田無第二中学校 学校自己評価表									
学校教育目標		本校の伝統である「誇れる上級生 学ぶ下級生」掲げ、地域、保護者と協働し、身に付けた学力と知性、豊かな心を確かなものにし、社会に貢献できる人材を育てる学校を創る。 健康 誠実 敬愛							

	具体的方策	第 1 回 前期				第 2 回 後期				関係者評価コメント
		学校自己評価			学校関係者 評価	学校自己評価			学校関係者 評価	
		努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策		努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策		
健康 誠実／ 質の高い 教育／ 考え、 感じ取る 生徒の 育成	学力向上 創意工夫された田無第二中学校の教育を 目指す、粘り強い学びの取組・学びの調整 への指導			保護者アンケートは年度末に実施予定。後期に評価する。		5	4	◆努力目標について 保護者アンケートにおいて「教員はよく分かる授業を心掛け、指導を工夫している」の項目において、否定的な回答は10％であった。肯定的な回答が90％であり、一定の評価を得られていることが分かる。また、学校公開時の保護者アンケートにも、「丁寧な説明で分かりやすく、安全面が強調されていて良かった(技術)」「とても分かりやすく、面白い(音楽)」のような記述が多く見られた。一方で、「もう少し生徒が興味をもてるような進め方をした方が良いのではないかと感じました」との記述もあり、授業改善の必要性を感じる。 ◆成果目標について 保護者アンケート「お子様は授業を通して、基本的な知識や技能が身に付けることができていると思いますか」について否定的な意見は20％、肯定的な意見は80％であった。 ◆学校の取組み・改善策 2学期末に進路学習指導部を中心に「田無二中授業スタンダード」をまとめ、教員に対して授業観察を促し、より良い授業が行えるような取り組みを行っている。今後も生徒の学力向上が達成できるような良い授業を行えるように、研修を積み重ねたい。	A	・よく分かる授業についての生徒の20％の否定的な意見を軽視することなく、丁寧に聞き取る必要がある。 ・授業改善については、管理職から自己申告面談時に生徒の授業アンケートを1学期末の結果を9月に、12月末の結果を1月に使用して指導していると聞いたので継続して授業改善をしてほしい。 ・8割以上が肯定的であり、今後も継続されたい。
	生徒が主体となる指導の充実 講義形式以外の授業、生徒が考える時間と 機会の確保、考えを書いたり、伝えたりする 活動の設定、個別最適化された学びと協働 的な学びのベストミックス	4	3	◆努力目標について 教員アンケートの達成率は100％だったので、数値としては5だが、「個別最適化された 学びと協働的な学びのベストミックス」においては課題が残るので、4とする。 ◇成果目標について 生徒アンケート「あなたは授業に主体的に取り組んでいますか」では、95％の生徒が肯定 的な回答をしていた。しかし、目標は「生徒が主体となる授業」である。今回のアンケート では言い方を変えるとして「一生懸命取り組んでいますか」ともとらえらる。生徒に尋ねたいこ とは「みなさんの活動が授業の中心となっていますか」ということのため、成果目標につい ての根拠となるアンケートではなかった。教員は生徒が主体となる授業にするために、日々 授業改善を行っているため、評価は3とした。後半のアンケートでは、その点も改善してい く。(本多主幹教諭)	A	5	5	◆努力目標について 教員アンケート「授業中に生徒が自ら考え、その考えをグループ学習等で伝えあう機会を設定している」…「はい」100％ ◇成果目標について 12月生徒アンケート「授業は主体的に取り組める内容である」…肯定的意見 1年96.3％ 2年93.1％ 3年96.5％ 前期の結果を受けて、本校では新たに「田無第二中学校授業スタンダード」を作成し、授業を行う上で達成すべき基準を設 けることで教員の授業力向上を意識するように取り組んでいる。その成果もあり、タブレットPCやICT教材を活用するなどし て、本校では教員全員でグループ学習を積極的に取り入れている。また、多くの生徒は話し合い活動や生徒主体の活動 に対し積極的に取り組みに参加している様子がうかがえる。このことはアンケートの結果からもうかがえる。	A	・生徒が主体となる授業というのは、どのような授業なのか不明である。 →教員が一方的に話したり、ひたすら板書をするようなのが、教員主体の授業です。生 徒主体というのは、生徒がお互いの考えを共有したり、話し合ったりする生徒が中心となる 活動を取り入れてる授業のことです。 ・グループの発表は、決まった一部の生徒のみが行わず、全員に機会を与えてほしい。 ・9割が主体的に取り組める内容と評価している。今後も継続されたい。
	指導と評価の一体化 学びに向かう力の指導・育成と評価	4	4	◆努力目標について 100％の教員が上記アンケートに「はい」と答えているが、「学びに向かう力」は、第三観 点の評価がCの生徒をBにする必要がある。その点において今後も粘り強く取り組む必要 があるため、4とした。 ◇生活目標について 上記アンケートに、94％の生徒が肯定的な意見を回答している。単元テストなどを行い、 短いサイクルで生徒に評価を還元し、授業への取組み状況の改善を促している教科(数 学)もあるが、学校全体としては不十分なところもあるため、4とする。(本多主幹教諭)	A	5	5	◆努力目標について 教員アンケート「生徒の評価の結果を元に、自身の指導を見直して授業内容の改善を行っている」…「はい」100％ ◇成果目標について 12月生徒アンケート「先生は授業を改善していますか」…肯定的意見 1年93.5％ 2年87.1％ 3年83.7％ 授業アンケートなどを通じて生徒からの声に向き合い、全教員が授業改善を行ってきた。しかし学年が上がるにつれて肯定 的意見が減少傾向があるため、独りよがりな授業にならないよう、今後の活動に反映させていかなければならない。その他 の取り組みとして、「田無第二中学校授業スタンダード」を活用して、相互で授業観察を行い、自己の授業を振り返ることで 更なる工夫を行える機会を設けている。	A	・引き続き、先生方には授業改善に取り組んでほしい。 ・1年生は9割、2年3年生は8割程度のてきである。2年生3年生にとっては多少マンネリ化 のパターンも考えられる。
	問題解決学習や探究学習の充実 様々な方法を考え、よりよいものを選択し、 取り組むことができる生徒の育成、思考力、 判断力、表現力の育成	4	4	◆努力目標について 教員アンケート「生徒が様々な方法を考え、よりよいものを選択して取り組む力を育てる活 動を取り入れる授業を行っている」について、肯定的意見の割合は88％であったため、 評価は4とした。ふるさと探求学習の推進も含め、引き続き取り組んでいく。 ◇成果目標について 生徒アンケート「あなたは課題に取り組む際に、深く考えずに取り組むのではなく、様々な 方法からよりよいものを選択して取り組むようになりましたか」について、86％の肯定的な 意見だったため、評価を4とした。この結果を10月の職員会議で共有し、研修を行い、より よい授業を行えるように努めていく。(本多主幹教諭)	A	4	4	◆努力目標について 教員アンケート「生徒が様々な方法を考え、よりよいものを選択して取り組む力(思考力、判断力、表現力)を育てる活動を 授業に取り入れている」…「はい」93.3％ ◇成果目標について 12月生徒アンケート「課題に取り組むときに、考えずに取り組むのではなく、様々な方法からよりよいものを選択して取り組 むことができる」 …肯定的意見 1年82.4％ 2年88.8％ 3年88.4％ 教員の回答結果に対して、生徒アンケートの結果が今一つ伸びが足りない。「田無第二中学校授業スタンダード」にも「2成 長を実感できる授業 ② 適切な難易度の問題演習を行った上で、可能な限り課題解決学習を取り入れる。」という項目が あるので、それを徹底することによって問題解決能力を育める環境を整えていきたい。	A	・1年生の数値が高く、3年生の数値が低いのは、3年生の方が質問内容を適切に把握 し、正しく答えているからではないか。 ・社会人となって仕事や日常生活においても活躍し続けるためには必要不可欠なスキル である。今後も8割以上をキープできるように継続をのぞむ。
	敬愛／ 自分も 他者も 大切に する／ 心と 体の 健康／ あった	不登校削減 不登校を出さない学級・学年づくり、未然防 止の取組充実と不登校生徒に寄り添った対 応	4	5	不登校加配配置校として、教室に入れないが学習に取り組みたい生徒に向けた「グリー ンスペース」を開設し、9月12日時点で2名の生徒が定期的に利用している。また職員ア ンケートでは、適切な対応を行うことができたという回答が88％あった。 4月当初は進級・進学が良いきっかけとなり登校できていたが、1学期の後半の頃より連 続して欠席する生徒が出始めた。欠席の理由や背景は一人一人異なるため、その点を 丁寧に見極めながら受けることのできる支援を提示し、きめ細やかな対応を行っている。ま た、今年度、不登校の未然防止や早期支援の取り組みとして、居場所づくり、絆づくりの 活動や、生徒アンケート「アセス」の実施を行っている。関係機関(SSW等)との連携は今 後も継続していく。(松元主任教諭)	A	4	5	◆努力目標 「教員アンケート 不登校の①未然防止②早期支援③長期的な対応を適切に行うことができた」について・・・ 肯定的意見93.3％ 不登校加配配置校2年目となり、不登校の未然防止や早期支援の取り組みとして、居場所づくり、絆づくりの活動や、生徒 アンケート「アセス」を年2回実施した。長期的な対応として、校内別室登校「グリーンスペース」は、より安心し快適に過ご しやすい空間となるよう整備を進め、1月10日時点で5名の生徒が定期的に利用している。スクールカウンセラーやスクール ソーシャルワーカー、適応指導教室「スキップ教室」、不登校ひきこもり相談室「ニコモルーム」等とも連携し、生徒や保護者 が学校や外部機関との繋がりを持つことが出来ている。また、教員対象の校内研修では、スクールカウンセラーや松ヶ丘高 校校長による講演会、未然防止・早期支援のための教科・学年の取り組みの意見交換等も行い、不登校対策についての理 解を深め、より良い支援ができたと考える。 ◇成果目標 「不登校出現率が都の平均以下にする」について 不登校出現率は、前年度の都の平均6.1％以下を目標としていたが、12月末時点で5.03％であった。昨年度の数値 (5.7％)よりも出現率は減少しており、不登校対策の効果があったと考えらる。来年度は不登校加配が終了するため、取り 組みの振り返りや精選を行い、より効果的かつ持続可能な対策を実施するとともに、魅力ある居心地の良い学校づくりを進 め、不登校の未然防止の取組に重点を置いて取り組んでいきたい。	A
いじめの未然防止、虐待の早期発見 面談、ハイリスク生徒管理、生徒の多様性を 重視、特別支援教育推進		5		夏季休業中に三者面談、年度当初や夏季休業明けには二者面談を行い、生徒一人ひと りの思いを聴く機会を多く設けている。また、生活指導上、指導すべき場面においても、 傾聴の姿勢を大切に、生徒の気持ちに寄り添った指導を行っている。その結果、教員 アンケート「生徒の話を聞いていねいに聞き、受け止めている」において、肯定的回答が100％ であった。生徒アンケートは年度末に取る予定なので、成果目標に対する評価は、後期 に行う。(桐山指導教諭)	A	5	3	◆努力目標について 「生徒の話を聞いていねいに聴き、受け止めている」の教員アンケートでは100％の肯定的な回答で あった。新しい環境になって生徒が悩みを抱えやすい新学期(4月)と夏休み明け(8月)の担任による二者面談、年3回の ふれあいアンケートを通じて、生徒が困っていることや悩んでいることを伝える機会を多く設けている。また、休み時間に生 徒とともに雑談をしたり、連絡帳の一言日記にコメントをするなどして、生徒の気持ちに寄り添うことができた結果だと考え る。 ◇成果目標について 数値が下がってしまった。生徒アンケート「先生は自分たちの意見や悩みについて親身に応じてく れる」では94.3％の肯定的な回答を得ることができたが、いじめの発件数が3件であったことが要因である。それは、昨 年度よりいじめを認知していく意識が教員の中に高まった結果であると考えている。いじめを未然に防ぐ指導も引き続き 行いながら、いじめが起きてしまったら、それを許さず、生徒の気持ちに寄り添いながら対応する、現在の姿勢を続けていき たい。	A	・SNS上のいじめにも適切に対応している様子がよく分かった。 ・1年生と3年生はいじめが認められた。2年生では本当になかったのか、報告しやすい取 り組みに今後も試行錯誤して取り組んでほしい。
地域 連携	ふるさと探究学習の充実と学校運営協議 会との連携 地域学校協働活動において工夫と連携	4	5	◆努力目標について 教員アンケート「ふるさと探求学習を計画的に実行し、地域の方々と連携して、生徒達の 西東京市への理解を深める活動を行えた」の達成率は82％であった。ふるさと探求学習 は2年目の取組みであり、どんな取組みがよりよいのか、手探りの状況であるため、評価を 4とした。 ◇成果目標について 生徒アンケート「ふるさと探求学習を通して、西東京市への理解を深めることが出来た」に ついての肯定的な意見の割合は93％であった。各学年で行っている様々な取組みによ り、以前と比較して、確実に西東京市への理解は深まっている。今後は、各学年で身に付 けさせたい力を明確化し、より計画的に行い、改善を図っていく。(本多主幹教諭)		4	5	◆努力目標について 教員アンケート「ふるさと探究学習を計画的に実行し、地域の方々と連携して、生徒たちの西東京市の理解を深める活動を 行えた」…「はい」80％ ◇成果目標について 12月生徒アンケート「総合的な学習の時間の探究活動を通し、自ら課題を設定し、学習することによって、西東京市の理解 を深めることができた」 …肯定的意見 1年96.3％ 2年92.2％ 3年95.3％ 実施内容:1学年「ふるさと地域学習(職場訪問)」2学年「地域学習(市内施設めぐり)」「平和学習(わたしたちの町の戦 争体験)」3学年「地域学習(ふるさと納税と西東京市)」 生徒アンケートの結果より、生徒はふるさと探究学習を通じて課題解決学習に取り組む、地域に対して理解を深めることが できた。一方、教員側の意見としては、「3年間でより一貫性のある取り組みにしたい」「探究学習について研究を進め、教 員全員が共通理解をもって活動にあたりたい」との意見があった。現在、来年度の計画は最終検討段階に入っている。より 生徒の取り組み意義のある活動になるように尽力したい。	A	・行政や社会福祉協議会・公民館・市報など多様な資源を利用して先生方も西東京市を 理解して欲しい。 ・全学年で9割以上が西東京市の理解を深めたとの回答である。さらに自ら探究できる資 質能力を身に付けられる生徒指導を継続してほしい。
業 務 改 善	働き方改革の実施 経営支援部による業務改善	3	4	業務の効率化に向けて作業をしやすく、ミスを少なくするために、まず机上整理を目標と した。全体に声をかけると会話の中に「机上整理」の言葉が飛び交うこともあり意識を高め ていった。具体的な業務の効率化に向けては今後、資料の提示や情報共有して改善を 図る。(角主任教諭)		2	4	成果目標「机上整理の意識が高まった」は、80％が肯定的な回答であった。職員会議等での声かけを行いながら、意識を 高められるよう取り組んでいた。働きやすい環境づくりやミスを減らし作業効率を高められるように今後も継続していきた い。 努力目標「業務の効率化にむけたアイデアを共有し、作業時間が短縮した」については、60％が肯定的な回答であっ た。ウェルビューイングアンケートを行い、集計結果より対策を進めていく。①アンケートを取ることが多かった為、各分掌 より実施期間や内容の集約を行い、精選を図る。②行事等のしおりや紙面の資料がある場合、保管スペースに集めスムー ズな業務につなげられるようにする。教職員の仕事内容は個々に異なるが、本分掌はそれぞれの担当が揃うので、意見を共 有しながら改善に努めていきたい。	A	・先生方の負担軽減のためにも、部活動指導員の指導可能時間を増やしてほしい。 ・今後も机上整理から働きやすい環境整備につとめてほしい。